


令和3年度		
氏名	あんざい たかゆき 安齋 孝行	
生年	昭和29年生	
住所	福島県二本松市	
品目	<p>養蚕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の養蚕農家数、繭生産量は減少が続き、国産生糸シェアは1%以下となる一方、「富岡製糸場と絹糸業遺産群」の世界遺産登録など絹産業へ関心の高まり ・ 産地を含む川上から川下までの関連事業者等が連携し、国産生糸の品質や希少性を活かした製品開発やブランド化、繊維用途以外の新需要の開拓等の動きが見られる 	
技術	<p>省力・効率的な養蚕、特徴ある蚕品種の飼育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条桑刈取機による桑収穫までの機械化一貫体系、地域の稚蚕飼育所と異なる時期の飼育を可能とする稚蚕人工飼育装置の導入と自家配蚕、自家での人工飼料製造等、各齢専用蚕室の設置、多段循環式飼育装置による給桑、自動条払機等を組み立てた省力化を通じ、通常より多い飼育回数の生産性の高い養蚕を実現 ・ 飼育が難しい或いは生産性が低いが、高級製品に使用可能な細い絹糸を吐糸するなど特徴ある繭質の蚕品種の大量飼育技術 	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和51年就農し、養蚕部門を主体に規模拡大。省力・効率化・安定生産技術の確立を通じ、平成初期には、全国トップレベルの繭生産量（7t以上）を実現。県下の養蚕の第一人者として養蚕振興に貢献 ・ 平成6年以降は、養蚕が終わった時期の蚕室や養蚕用多段循環飼育装置を活用し菌床しいたけ栽培を開始。その後も切り花キクの導入等、家族とともに複合経営を拡大 ・ 東日本大震災時は、指導農業士会長として震災復興を目指す取組に尽力 ・ 国産生糸を使った高級絹製品開発を目指し、機屋・アパレル業界等実需者の最新ニーズに応じて、飼育が難しい或いは生産性は低いが極めて細い等特徴ある高品質な絹糸を産出する特殊な品種の飼育にも取組 ・ 地域の児童生徒等を対象に農業への関心を深める活動を夫婦で実施 	
相談に応じられる分野・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川下の要望に応じた特徴ある蚕品種の飼育、繭生産・販売 	
受賞歴等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成2年度 全国農林水産祭（蚕糸・地域特産部門） 天皇杯 ・ 平成20年度 福島県農業賞（妻 安齋とく子氏と） ・ 令和元年度 大日本農会農事功績表彰（農産・特産部門） 農業功労者緑白綬有功章 	
主な役職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成2年～平成8年 福島県蚕業中堅青年連絡協議会副会長 ・ 平成9年～現在 福島県蚕桑研究会会長 ・ 平成7年～平成28年 福島県指導農業士（平成22年度～23年度 会長） ・ 平成21年～平成31年 福島県国際農友会副会長 ・ 令和2年～現在 徳農会会長 	
H P		



飼育風景（特殊蚕品種：玉小石丸）



繭（一般品種：白色繭）